

登録コード	E4652900	開講年度	2026					
授業科目	美術科教材論					担当教員	大島 賢一	
英文授業名	Study of Teaching Materials for Art Education					副担当		
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	金曜・3時限		対象学生	3-4年生
講義室	教育N104講義室			授業形態	講義	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー	非該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					⇔	【授業の達成目標】	
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ, 23Eカリ, 22Eカリ, 21Eカリ, 20Eカリ							
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観					⇔	美術科教育の意義及び目的を正しく理解し、授業計画を作成することができるようになる。	
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能					⇔	美術科の教材を開発するための知識及び技能を習得する。	
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化							
(3)全学横断特別教育プログラム								
(4)授業の概要	・美術科における教材の意味について検討を行う。 ・様々な美術科教材について批判的検証と改良を行う。 ・美術科の年間カリキュラムの作成を行う。 ・考案した授業に基づいた美術科教科書の作成を行う。 ・考案した授業について模擬授業を行い、その効果を検証する。							
(5)授業計画	第1回：オリエンテーション 美術科における教材の意義 第2回：教材と学習指導案 教材研究の方法 第3回：美術科の年間授業計画を作ろう(1)課題の設定と条件の確認 第4回：美術科の年間授業計画を作ろう(2)情報収集 第5回：美術科の年間授業計画を作ろう(3)年間計画作成 第6回：美術科の年間授業計画を作ろう(4)発表 相互検討 第7回：美術科の教材（教科書）を作ろう(1)課題の設定と条件の確認 第8回：美術科の教材（教科書）を作ろう(2)美術科の教科書を分析する 第9回：美術科の教材（教科書）を作ろう(3)材料、情報収集 第10回：美術科の教材（教科書）を作ろう(4)教科書作成 第11回：美術科の教材（教科書）を作ろう(5)発表 相互検討 第12回：模擬授業による教材検証 第13回：模擬授業の検証とまとめ 第14回：総括 美術科における教材研究と授業実践の関係について（及び授業アンケート） 教育実習等に関わる補講については、授業において指示する。							
(6)成績評価の方法	年間指導計画 30% 課題として作成した教科書 30% 模擬授業のための指導案とその実践、及び授業実践後のレポート 40% ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。							
(7)成績評価の基準	それぞれの課題については、講義の内容を理解し、反映していれば「水準にある」。発展的な問題への認識が見られれば「やや上にある」。そうした問題に対して、自分なりの解決を示そうとする様子が見られれば「かなり上にある」。教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。							
(8)事前事後学習の内容	課題についての情報収集や素材収集について授業外にて課される。また、課題については授業外において相応の活動を行うことが前提される。							
(9)履修上の注意	美術科指導法基礎を履修していることが望まれる。							
(10)質問、相談への対応及び連絡先	研究室電話番号026-238-4141 oshima@shinshu-u.ac.jp 適宜対応する。							
【教科書】	文部科学省『中学校学習指導要領解説 美術編』							
【参考文献】	適宜指示する。							